

○2番（近藤 敏彦君） お疲れさまでございます。行政の皆さんの顔ぶれも変わりました、新たな気持ちで迎える6月定例会であります。どうかよろしく願いをいたします。

それでは早速質問に入らせていただきます。

今年2月に起きた事件ですが、皆さんの記憶にまだ鮮明に残っていると思います。川崎市内の中学1年生が少年3人によって殺されてしまうという、同じ中学生の子を持つ親としても本当に心が痛い出来事についてであります。この事件で犯人逮捕の決め手になったのは、公園をはじめ、市内各地に設置されている防犯カメラに映った少年らの姿でありました。この事件のほかにも、最近では防犯カメラが事件の早期解決に大いに役立っていることが聞かれます。

幸いなことに、本町では今までにこうした凶悪犯罪などは起こっておりませんが、不審者が小学生らに声をかけるといった心配な事例が最近よく耳に入ってきます。これから先も子どもからお年寄りまで、町民の皆さんが安心して暮らしていけるよいまちにしていくための方策について、お尋ねをいたしますが、そのためにはまず安全を最優先とすることが大切なことと思います。

1つ目に、以前にごみの不法投棄を監視するため、防犯カメラを設置した経緯があり、それによって不法投棄がなくなったとの報告を受けておりますが、そのほかにさまざまな犯罪を未然に防ぐという意味を含めて、町内の主要な場所にカメラの設置をしていくという考えはありませんか。

2つ目は、通学路についても非常に道幅が狭い、道路に面した箇所が多くあり、とても危険です。このような危険な通学路についての改善策は考えていますでしょうか。

よろしく願いいたします。

○議長（山本 陽一郎君） 水谷町長。

○町長（水谷 俊郎君） 安全を最優先にしたまちづくりということで、お答えをさせていただきます。

先ほどの防犯カメラの設置でございますけれども、それを促進するということにつきましては、私はこの社会、我々が住んでいるこの社会が監視社会になるということを、私たちが受け入れる必要があるのではないかなというふうに思っております。

私たちが子どもころの地域コミュニティは、そこに住む住民の方々が強いきずなで結ばれておりまして、こうしたきずなが、起こり得る犯罪というものを未然に防いできたというふうに思っております。しかし、核家族化が進み、家族のきずなも弱まるとともに、地域コミュニティの形が変わってまいりました。そして地域の持つ犯罪抑止力が弱くなってきているのではないかなと思っております。

こうした中で、町内各所に防犯カメラを設置するという事は、当然犯罪抑止力につながるというふうに思っておりますし、犯罪が起こった場合、先ほどの例もありますように、捜査支援の対象ということでつながっていくというふうにも思っております。

ただその一方で、私たちは常に見えない目で監視されているんだということを自覚していく必要があると思います。私たちが持つ、人としての権利やプライバシーが侵される危険性、こういうことをこの監視カメラをつけるつけない、この問題は、その中に常にそういう問題を内包しているというふうに考えていかなければいけないというふうに思っています。

こうしたことを進めるためには、防犯カメラを設置するとするならば、その目的だとか場所だとかというものを検討しなければいけないし、画像の使用、映った画像をどう使用するかという使用の基準、また、こういったことに対する町民の皆さまのご理解、こういうものを諮っていかなければいけないと思っております、細部にわたって検討が必要になるというふうに思っています。

そういう意味で、行政といたしましてこういうものをつけるのかつけないのか、どうするのかということにつきましては、近隣市町の動向も見ながら、本当に慎重に検討をしていかなければいけないんじゃないかなというふうに考えております。

続きまして、通学路についてのご質問にお答えをさせていただきます。

現在、通学路につきましては、毎年、年度末に学校と各地区の保護者代表との間で協議しながら、通学路の確認をさせていただいております。

また、全てではございませんけれども、日ごろから子どもたちの登下校を見守っていただいております自治会やボランティアの皆さまのご意見を参考にしているという学校もあります。

しかしながら、例えば三和地区ではイオンの施設の建設とか、あるいは東海環状自動車道の東員インターの建設だとか、道路関係の建設なんかで、いつも日々環境が変化をしていると、こういった地域もございますので、通学路の変更も含めて、協議を適宜行っているところがございます、これからも最優先は子どもたちの安全でございますので、臨機応変な対応ができるような体制づくりというものを進めてまいりたいというふうに思っております。

一方、通学路の危険箇所の点検及び対応につきましては、これまでの対応に加えまして、昨年12月に策定いたしました「東員町交通安全プログラム」にのっとりまして、先月15日に第1回目の東員町通学路安全推進会議を立ち上げました。その場で、再度、通学路の危険箇所について、一つ一つ丁寧に、桑名建設事務所や警察などの関係機関と協議をいたしております、これからもお互いに連携しながら対応をさせていただきたいというふうに思っております。

先ほども申し上げましたように、児童生徒の命が大事でございますので、通学路の安全確保についても、その点を第一に努めてまいりたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（山本 陽一郎君） 近藤議員。

○2番（近藤 敏彦君） 監視カメラの件ですけれども、町長おっしゃられるように、最近の社会というのは昔から見たら疎遠になってきたというか、コミュニティが非常にばらけてきたように思います。昔はおっしゃるように地域の目が光ってまして、どこの子となくしかるおじさんがおったのを記憶しております。

そういう意味で、今の社会であれば、それにかわるのが監視カメラなのかなというふうに思われますけれども、監視カメラの監視という意味合いを、私も非常に危惧するわけでありまして、そういったプライバシーの問題と相反するものがありまして、非常に難しい問題かなと、そのように思っております。

あと、通学路につきましては、交通安全プログラムというのができて、通学路安全推進会議というのが発足されたということで、これには期待するものであります。

さて、防犯カメラの設置が可能となるようであれば、まず町外からも多くの人が利用していただいている中部公園に設置することが最優先かなと私は思っております。中部公園の夜間の状況ですが、フェンスで囲まれていて門扉が閉まるというわけでもなく、人の出入りは自由にできるものと思っておりますが、防犯対策は現在どのように行われていますでしょうか。

○議長（山本 陽一郎君） 近藤建設部長。

○建設部長（近藤 行弘君） お答え申し上げます。

中部公園におきましては、防犯灯というか、中の街路灯によりまして全て明るくしていると。ほかの公園に比べましても、かなり明るい公園であると私は自負してございます。

また、最近、不祥事ということはまず聞いておりませんし、数年前にございました、例えばトイレのガラスを割るとか、そういったことがございましたけれども、このところは全くそういったことは起こってないということで、ものすごく私は安全な、今のところ公園であると思っております。

以上です。

○議長（山本 陽一郎君） 近藤議員。

○2番（近藤 敏彦君） 前にトイレのガラスを割られたということ、落書きされたということを僕知ってるんですけども、明るかったら余りやらないのかなとは当然思いますけれども、明るいプラス人の目というか、必要なんじゃないかなと。ただ、夜間にいっぱい人が来て遊んでもらっても困ると思うんですけども。

例えば民間で警備会社なんかを利用して、夜間の巡回などをしてもらおうということとは考えられませんでしょうか。

○議長（山本 陽一郎君） 建設部長。

○建設部長（近藤 行弘君） お答えします。

警備会社につきましては、管理棟につきましては警備が入ってございますけども、全体を見ていただくというふうな警備については、今現在行ってございません。

以上です。

○議長（山本 陽一郎君） 近藤議員。

○2番（近藤 敏彦君） あと、中部公園もそうなんですけども、幼稚園だとか小中学校にも防犯カメラは必要なんじゃないかなというふうに私は思っております。以前に幼稚園の入園式にお邪魔した時に、職員の方からお聞きしたことがあるんですけども、新入園した園児は新しい環境に数日でなれることができる子どもが大半なんですけども、数カ月たっても家が恋しくて、門の狭いすき間をすり抜けて園の外に出てしまう子どもも毎年数人はいるので大変です、ということをお聞きしました。

このように幼稚園などは外からの侵入もさることながら、外に出ていってしまうという事態も考えられることでありまして、防犯カメラの設置やセンサーなどによるセキュリティシステムの導入などを検討してみることはできないでしょうか。

○議長（山本 陽一郎君） 岡野教育長。

○教育長（岡野 譲治君） お答えをさせていただきます。

その前に自分の悪い癖で興奮してしまう自分がありまして、本当に申しわけありませんでした。

ご質問にお答えをさせていただきます。

今のところ防犯カメラに関しまして、幼保からの設置要望は、私どもお聞きしておりません。近藤議員がお話をされたような、園児が出ていくというような、これは毎回そういう事実があるということで、園生活になれるに従って落ちついているんですよということもお聞きしております。ただ、1人でもそういうお子さんの安全を考えたならば、本当に心配されることであるなということはお聞きしております。

現在、対応といたしましては、基本には幼稚園の先生、担任の先生なんかきちんと見ていただくということの基本としておりますけれども、すき間から出るというのはちょっとあれなんですけど、出入り口は必ず閉めて、そして子どもの手では開けないようにというようなことをお願いをしておりますし、保護者の方もたまに遅れてみえる方が見えて、それを忘れるということのないように、きちんと閉めるということの徹底はさせていただいております。

もう1点は、人的配置の増員といいますか、多くの人目で見える体制というのも進めようとしております。具体的には個に応じた教育・保育の推進のためという

ことで、保育支援員という制度をとっておるんですけども、実は平成22年度で、幼保で保育支援員16名やったんですけども、本年度の予算規模で44名の保育支援員を各園・各校に配置して、個に応じた形の保育教育を進めると同時に、そういう方にもお願いしながら、子どもたちが外へ出て行くことのないようにというような体制をつくってまいりたいなと思っております。

ただ、今後、三和地区もそうですけども、交通事情やいろんな防犯上の変化も考えられますので、防犯カメラの必要性とか、セキュリティ業者の委託依頼というのも検討課題であるなという認識は私どもも持っております。

以上でございます。

○議長（山本 陽一郎君） 近藤議員。

○2番（近藤 敏彦君） 保育支援員を大幅に増員していただいたということで、人の目が一番何よりも大事ななというふうに受け止めました。

あと、別に機械警備だとか、警備にこだわる必要はないんですけども、それなりの方がそれなりの目で見守っていただければいいのかなというふうに思っております。

そのほか、通学路につきましては、長深南大社地区より要望があったのですが、現在町内では、シニアクラブの皆さんの協力によって下校時の監視などを行っていただいております。児童の通学については、地域の皆さんの多くが高い関心を持っていただいていることが伺えます。しかしながら、場所によっては昼間でも薄暗い山の中を通ったり、車道と歩道が分けられていないような箇所が何カ所もあります。三和地区に限らず、町内にはこのような危険な通学路は数多く存在すると思われませんが、通学路の見直しなどを含めて、地域の意見の聞き取りは十分にできていますでしょうか。

○議長（山本 陽一郎君） 教育長。

○教育長（岡野 譲治君） お答えをいたします。

通学支援ボランティアの人のご意見を聞く会とか、それから日常的にこういうところが危ないというところがありましたら、学校のほうへ言っていただくというのを大事にしております。

ただ、全ての学校が年に一遍、定期的にそういう会を開いていると、そういうところは弱いところがありますけれども、いろんな情報を学校並びに私ども教育委員会に寄せていただいたり、先ほど町長が答弁されたような組織を使いながらお知らせをしていただければ、私どもも学校も臨機応変に対応していきたいなと思っております。

以上でございます。

○議長（山本 陽一郎君） 近藤議員。

○2番（近藤 敏彦君） さっき町長のほうから答弁いただきましたけども、通学路安全推進会議というのが桑名建設事務所と警察などを交えて行われておると。これはメンバー的には建設事務所と警察以外には、どのような組織が働いてますでしょうか。

○議長（山本 陽一郎君） 教育長。

○教育長（岡野 譲治君） 町全体の推進会議はいなべ警察署の交通課、桑名建設事務所の保全課、東員町の建設課、東員町の町民課、そして東員町の教育委員会事務局で組織をしております。それからそれに伴いまして各学校にそういうような、それぞれ守られる小学校の通学路安全推進会議というのを設置するようになってます。そのメンバーは、それぞれ少し学校によっては違いますけれども、PTAの人に入ってもらったり、学校の先生に入ってもらったり、自治会の方が入ってもらったり、いろんな体制があります。

以上です。

○議長（山本 陽一郎君） 近藤議員。

○2番（近藤 敏彦君） 以前、中上地区でも、イオンのオープンに伴って通学路の変更を余儀なく行った経緯がありますが、少し遠回りをしてでも安全な道を選択するというのが大切だと私は考えております。この中上の場合は、それまで児童の全てが一本の通学路で通っていたものを2カ所に分けて、いずれかの道を希望、選択して二手に分かれて通学するという事に落ちつきました。現在もその方法が継承されております。

この時のルートを選定は、保護者同士での話し合いにより決定されましたが、その際に下校時の見守りをしていただいていたシニアクラブから意見が出て、通学路が2カ所に分かると見守りも2班に分けなければならず、人の割り振りなどの面で難しい問題が出てくるため、できれば1カ所の通学路に絞ったほうがよいのではないかというような意見でした。しかし最終的には保護者の意向を優先して、2ルートで通学するという選択がなされました。

今回の長深地区からの声は、シニアクラブの関係者から出たものでありますが、今後の通学路を考える上で、学校保護者のほかにもシニアクラブなど、実際に通学にかかわっている方々を含めての検討が必要と思います。現在ではそのような話し合いの場を設ける際に、参加するメンバーなどを含めて、全町的に明確にルールなどを決めていってほしいと思います。その辺、お願いいたします。

○議長（山本 陽一郎君） 教育長。

○教育長（岡野 譲治君） お答えをさせていただきます。

通学路の選定は基本的には学校と保護者が基本になります。先ほども申しましたけれども、学校によって、また別の方が入る場合もありますけれども、基本はそれです。ただ、いろんな状況変化等があり、いろんなご意見をそういうところ

に持ってきていただきまして、改善できるところは改善していくという姿勢は、学校も保護者の方も持っていると思います。

以上でございます。

○議長（山本 陽一郎君） 近藤議員。

○2番（近藤 敏彦君） 先ほども私申し上げたとおり、地域の目というのも非常に大切なんじゃないかと。学校と保護者の方々がいろいろこの道がいいよ、あの道もいいよというふうに知恵を出し合って決めていただいているものだと思いますけども、実際、毎日そこを通られる地域の皆さんの目というのもありますし、実はあそこでちょっと怖い人がおったなとか、そんな目もいろいろあると思いますので、別の方とおっしゃいましたけども、地域の方も交えて、多くの意見を取り入れていくことがいいんじゃないかなというふうに思います。

多くの方が入れれば入るほど、まとまるのも難しいかなと思いますけども、なるべく意見としては、多くの意見を聞くべきじゃないかなと思います。

あと、イオンのオープンにより明らかに車の通行量が増えた三和地区をはじめ、町内には通学に際しての危険な箇所は何カ所もあると思います。これらは時代の移り変わりとともに場所も変化いたしますし、その数も変化すると思います。その時々合った安全な通学路を選ぶことが重要ですが、通学路の問題ですので、担当部署は、これは学校教育課ですというふうにやっちゃうのではなくて、建設課も入って、学校保護者と地域の方々と話し合いの場を持つことができたら一番いいことだと思います。

いずれにしましても、東員町で暮らす皆さんのそれぞれの地域が安全でないことには、安心して日々を過ごすことはできず、地域の活動もできませんので、まずは安全なまちづくりを念頭に置いた上で町運営をお願いしたいと思っております。

1点目の質問は、これで終わらせていただきます。

続きまして、2つ目の質問に移らせていただきます。

観光を進める施策について、お伺いをいたします。

最近、隣のいなべ市は活気があるなと思うことがたびたびあります。農業公園を利用した梅まつりやぼたんまつりは、何年も続くイベントの一つとして広く周知されてきたように思われます。最近では5月に国際自転車レースが市内の道路を利用して行われました。また、今月には福王ラリーが開催予定となっております。

このように毎年開かれて恒例となっているイベントに加え、目新しいものも取り入れており、とても元気があるように見てとれるわけであります。

先般の町長の所信表明で地域活性化の拠点、観光集客の拠点など、町の顔となる拠点が存在していないという言葉がありました。観光の面からも、それらの必要性は十分に理解していただいているようですので、それを踏まえて、本町としての考えをお尋ねいたします。

1つ目は、以前より指摘のある中部公園を中心とした観光の面から町の活性化を図る方策について、近隣市町を参考にして、イベントの開催や施設の見直しなどは考えておられましたでしょうか。また、昨年大成功となった中部公園でのマルシェの今後の計画はどうなっていますでしょうか。

ご答弁よろしく願いいたします。

○議長（山本 陽一郎君） 水谷町長。

○町長（水谷 俊郎君） 観光の施策について、ご質問にお答えを申し上げます。

観光資源の乏しい本町におきまして、中部公園は町内外から若い親子連れ世代を中心に大変好評をいただいております、この公園を観光の拠点の一つとして位置づけることはできると思っております。

ただ、観光集客とは、来ていただいた方がそこでお金を落としていただいて、その地域に貢献していただくということではと考えております。

その観点からいたしますと、今、中部公園にはパークゴルフ場はありますが、その他、有料遊具や食事や物販のできる場所などがありません。そういうものが整備されて、そして収益事業が適正に管理・運営されているという必要があるのではないかなというふうに思っております。

中部公園がもし税金を投入せずに管理・運営がされている状態があるということになれば、これは立派な観光集客ということになると思っております、中部公園がそうなるためには、そのための人材育成が重要なカギを握るものと考えております。

今、議員からご質問の、近隣市町を参考にしたイベントの開催ということでございますが、今も議員ご案内のように、いなべ市では3月に梅林公園での梅まつり、7月に中里ダムを利用したボート交流大会、11月に、いなべの里の新そばまつりのほか、青川峡キャンプパークなどで、年間を通じてさまざまな催しものがなされておまして、この間は国際自転車ロードレースが開かれたことはご承知のとおりだと思います。

ただ、こうした観光イベントを開催する目的やメリット、デメリットを分析する必要があると思っておりますし、協働できる民間の存在も調査をしなければいけないと思っております。

いなべ市ではイベントの開催に当たって、市が実行委員会を立ち上げたり、指定管理者制度を導入したりして、その運営を行っているとお聞きをしておりますが、採算や効果の分析につきましては、資料を入手しておりませんので、わかっておりません。

本町におきましては、中部公園を観光集客の拠点となるよう、管理・運営を任せられるような法人、あるいは個人の出現を望んでいるところでございまして、観光



協会もその一つでございますが、観光協会につきましてはまず自立をしていただき、その体質改善を図っていただくことが大切だなと思っておりますし、観光集客できるようなイベントの企画の提案や、その運営をしていただけるような組織になっていただくということを期待をさせていただいております。

次に、食事のできるような施設の見通しでございますが、中部公園のオープンに際しましては、食事もできるレストハウスの計画もあったように聞いております。設計図もあったように聞いております。ということであるならば、環境さえ整えば、こうした公園内で施設をつくるということは可能であるというふうに認識をしております。

しかし、こうした場所では、できる限り町内産のものを提供して町をアピールするという必要があるのではないかなというふうに思っておりますし、農業や商業との連携をして商品開発をする必要もあるのではないかな。

また、先ほど、観光集客の中でいろいろ申し述べてきましたけども、総合的に考えていく必要があるのではないかなというふうに思っております。

続きまして、中部公園でのマルシェでございますが、昨年6月、観光協会の主催により、アントムサイドが運営を担当いたしまして開催されましたマルシェは、町内外から78区画のブース出店がありまして、約7,000人の方が入場いただいたと聞いております。客層の多くは大変若い人が多くて、町外からもたくさんお越しをいただいております。こういった意味からも、東員町をPRをしていただく大変いい機会になったのではないかなと思っております。

昨年の大盛況を踏まえまして、今年は観光協会が自ら主催・運営をするということを考えておられるようで、9月12日（土曜日）と13日（日曜日）の2日間を開催日として、今、計画をさせていただいているようでございます。

こうしたイベントは、毎年定期的で開催していただくことがいいのではないかなというふうに思っておりますし、行政といたしましても、公園の使用や企画運営方法につきまして、できる限り支援を行ってまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（山本 陽一郎君） 近藤議員。

○2番（近藤 敏彦君） ありがとうございます。

いなべ市のロードレースだとか、派手に目に映るわけなんですけども、結局観光という意味でお金が落ちるものなのかどうなのかなと、ちょっと私も勉強不足であれなんですけども、対外的なPRという部分については、非常に有効ではないかなというふうに思っております。

以前より私は、東員町には中部公園という立派な公園があり、これを利用して町外からも多くの人を呼び寄せて観光の面を充実すべきだと訴えてまいりました。町

外の多くの人からも、中部公園にはよく行くという声が聞かれます。事実、子ども連れの家族など、多くの人々が利用していただいております。

しかしながら以前より言われておりますように、お金を落としていただけるような仕組みになっていないのが残念なところであります。先ほど町長おっしゃられたように維持費がかかると。年間に3,000万円以上も維持費を要する施設でありまして、もう少し収入という面で真剣に考える必要はないかなと思っております。売店を設置していただいて、いずみがパンなどを販売していただいておりますけども、この売店の現在の利用状況など、わかりましたら教えていただきたいと思っております。

○議長（山本 陽一郎君） 建設部長。

○建設部長（近藤 行弘君） お答えを申し上げます。

中部公園の売店につきましては、平成25年からやっておると、たしか思っているのですが、ごめんなさい、平成26年度なんですけども、その数字が出ておりますので、利用者数が9,532名ということでご報告をいただいております。売り上げにしましては約160万円ほどということで、お聞きをしております。

以上です。

○議長（山本 陽一郎君） 近藤議員。

○2番（近藤 敏彦君） 平成26年度からですので、まだこれから先、重ねていくわけなんですけども、ぜひこれ町を上げて利用者数、あと売り上げ金額、これを向上させるということを念頭に置いて取り組んでいただきたいと。せっかくお金をかけてつくった施設でありますので、当然そのリターンが返ってこないといけないと思っておりますので、その辺も考慮していただけたらなと思っております。

あと、中部公園は食事を心配することなく、長い時間、遊ぶことができる施設であり、利便性がよい公園という面も大いに必要なのではないかと思います。食べ物関係でいいますと、B級グルメの店を全国から2~3店、週変わりで集めてきて、春や秋などの行楽シーズンを見据えたグルメイベントなどを計画してみるのはおもしろいかもかもしれません。

また、イベントを企画するような外部組織からのアイデアを取り入れていくことも、活性化を促すことには有効な手段ではないかと思っておりますが、いかがでしょうか。

○議長（山本 陽一郎君） 町長。

○町長（水谷 俊郎君） 先ほどもご答弁をさせていただきましたように、そういう企画立案をいただくような人材というのが非常に望まれるところがございます。せっかく観光協会があるわけですから、観光協会の中で、そういう計画立案をいただけるようなことになるといいなというふうに思っております。

先ほども言いましたように、この公園は当初、レストハウスというのが何か計画されていたようでございます。ただ、予算の関係でそれはなくなったと。ただ、図面はあるように聞いてます。

ということは先ほども言いましたように、ここで食事のできるような、あるいは物販できるようなものが建てられるということは、公園の中ですけど、あると思っております。そういうことがうまく利用できるような企画提案というものが必要だろうというふうに思っておりまして、行政が進めますと、どうしてもうまくいかないというのが、もうどこでもそうなので、そういう人材が出ていただくこと、あるいはそういう企画提案がいただけることを期待をさせていただきたいというふうに思っております。

○議長（山本 陽一郎君） 近藤議員。

○2番（近藤 敏彦君） そのようなイベントを企画するような優れた人材を育成するということは、非常に私も賛成です。

ただ、イベントだとか、その辺の企画まではいかないにしても、こういう方法があるんやと。外部からこういう団体があって、こういうことをしてくれる団体があるんやとか、そういうコンサルティング的なことができる人の人材、こういうものの育成も大事かなというふうに思います。

あと、さまざまなイベントを催す際には、必ずしも観光協会や町が主催する必要はないと思っております。大社まつりなどは神事ですので、猪名部神社が主催者であり、商工祭は商工会が、コスモスまつりは観光協会というように、それぞれの団体が、それぞれのまつりやイベントを開催したらよいとは思いますが、やはりそれを全体的に管理監督する必要があるかと思っております。現在ではこのようなイベントなど、監督されるような役割を果たしておられるのはだれでしょうか。

○議長（山本 陽一郎君） 町長。

○町長（水谷 俊郎君） なかなか役場の中でも、それをまとめて管理していくという人材はいないというのが現状ですけども、私、先ほども言いましたように、観光協会というのは大体全国的に事例を見ると、観光協会がそういう役割を果たしていただいているというふうな認識をいたしておりまして、先ほども言いましたように、せっかく観光協会があるわけですから、観光協会にそういうことを担っていただけるような存在になっていただければなというふうに期待をしております。

○議長（山本 陽一郎君） 近藤議員。

○2番（近藤 敏彦君） 観光協会はいくまでも外部団体ですので、役所の中でそのようなことを担っていかうと思うと、東員町では産業課なのではないかと思っております。ほかの市町に行きますと商工観光課だとか、そういった課がありますけども、東員町では産業課が今これから担っていくべきなのではないかなと思っております。

ども、産業課では年間のこういったイベントだとか、スケジュールを全部一括で管理されているようなことはやってますでしょうか。

○議長（山本 陽一郎君） 建設部長。

○建設部長（近藤 行弘君） お答え申し上げます。

まず観光協会さまでございませうけども、私としては最大の私どものパートナーということで認識はしております。その計画等々、全て私どもにお教え願って、あとの外部団体の方々、例えば商工会の方々ができる催しとかいうふうなものについては、一括して私どもで確認はしてございます。

○議長（山本 陽一郎君） 近藤議員。

○2番（近藤 敏彦君） イベントといいましても、商工的なイベントもありますし、教育関係のイベントなんかもあると思うんですね。こども歌舞伎だとか、いろんなイベントもありますけども、このようなものを一括して町として管理していくということ、このようなことを担っていくような部署というと、また産業課ではないような気がしますし。私の言いたいのは、結局、町内でのまつりイベントを全て一手に引き受けて管理されるような部署が必要ではないかなというふうに私は思います。

あと、マルシェについては、先ほどの答弁でもありましたけども、私の聞いたところでは、昨年7, 500人を超えたというふうに聞いております。今年はまたいつ開催されるのかという声も多く聞かれます。楽しみにしていらっしゃる方も多くおられるようです。今年は観光協会が音頭をとっていただいて、9月12日、13日、計画をさせていただいておるようです。ぜひ今後も継続していただきたいイベントと思います。

あと、今では日本で2路線となってしまいましたけども、ナローゲージの北勢線というのが東員町にはあります。この北勢線に乗って東員町に来ていただいて、中部公園で遊んで、おいしい物を食べて、地元の物産を土産として買って帰っていただき、また今度も東員町に行きたいなと思ってもらえるように、楽しくてワクワクするようなまちになれるよう、観光の面からも東員町をアピールしていただきたいと願います。

最後にこのような北勢線だとか、いろんな手段はあると思いますが、東員町をひとつ観光の面からどのようにされたいのか、町長にお伺いします。

○議長（山本 陽一郎君） 町長。

○町長（水谷 俊郎君） 今、議員言われたとおり、観光というものに資する資源というものはいっぱいあると思うんです。だから眠っているものを起こしてとか、そういうことできちんと観光につなげていく、観光集客につなげていくということが必要ではないかなというふうに思っております。

先ほども議員おっしゃられましたように、東員町の一つの強みは文化だと思っております。皆さんがいろんなところでご活躍をいただいているということもありますし、こども歌舞伎、来月、7月5日に開催をされます20周年で大作が2題、子どもたちがやり切っていただくところを、町民のたくさんの皆さんが楽しみにしていただいていると思うんですが、こども歌舞伎や年末の風物詩の日本の第九ですね、あるいは員弁川という劇団もごございますし、朗読ひばりの会、飛龍太鼓、あるいはミュージカル、いろんな面で東員町を売り出せる、そんな文化というものが東員町には根づいているというふうに思っておりますので、これを観光集客につなげていくということも非常に大切なことだというふうに思っております。

今、議員ご指摘のように東員町の中で、役場の中で、それを総合的にプロデュースしていけるような、そんな部署があったらいいなと、私もそう思っておりますので、検討をさせていただきたいというふうに思っております。どうか観光集客、または文化振興に議員の皆さま、町民の皆さまにもご理解、ご協力を賜りますことをお願いを申し上げたいと思います。

ありがとうございます。

○議長（山本 陽一郎君） 近藤議員。

○2番（近藤 敏彦君） 私の質問を終わらせていただくわけですが、東員町へ行けば、何かいつもおもしろそうなことをやっていると、一回行ってみようやというふうに足を伸ばせることができるような活気のあるまちにさせていただきたいなと思います。

以上です。

ありがとうございました。